

令和6年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間 **最終**)

安浦中学校区 校番32 学校名 呉市立安浦小学校

a 学校教育目標	ふるさとを愛し、よりよい未来の 創り手となる児童の育成 ～学ぶ つながる 役に立つ～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) ○ 自校や郷土に誇りと愛着をもち、地域社会に感謝・貢献する児童の育成 ○ 様々な人々と協働して、主体的に問題解決に取り組む児童の育成 〈ビジョン〉(将来の学校像) 予測困難な時代に一人一人が未来の創り手となることが求められています。安浦中学校区は、よりよい小中一貫教育を通じてふるさとを愛し、よりよい社会を創るという目標を共有し、防災教育と地域に根ざした主体的な学びを推進し、地域と連携・協働しながら、未来の創り手として必要な資質・能力を育みます。
----------	--	----------------------	---

c 中期経営目標を踏 まえた現状(進捗状 況)と今年度の重点	学校の使命である「学力の定着」と「社会性の育成」のための基盤づくりはもちろん、学校文化の創造・継承や保護者・地域に信頼される学校づくりがさらに求められる。平成30年7月の豪雨災害で安浦は大きな被害を受けた。そこで、自分の命は自分で守る能力を身に付けるとともに、人や地域との絆の大切にし、ふるさと安浦の未来の創り手として、災害に強い町づくりを推進していく資質・能力を育成することが責務である。また、学力調査結果から、生きて働く知識・技能の確実な定着とともに、知識・技能を活用していく思考力・判断力・表現力の育成が課題であった。そのため、「チーム安浦」として全ての教職員がベクトルを合わせ組織的に取り組み、学校教育目標やミッション・ビジョンを具現化するために、「防災教育」「地域に根ざした主体的な学び」「ICTを活用した考える授業への改善」の充実を図っていく。
--------------------------------------	--

育成を目指す資質・能力	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」「感謝・貢献」
-------------	---

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・ ③ 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目 標 値	上半期			下半期		
						i 達成 値	j 達成 度	k 評価	i 達成 値	j 達成 度	k 評価
*** 確 かな 学 力	主体的・対話的で 深い学びを実現 し、確かな学力の 向上を図る。 ①	思考力・判断力・表 現力を高める。	子どもの問いを生かし、「思 考の型の活用」や「根拠を基 に理由付けた発言や主張」を 取り入れた授業づくりを行う。	国語科・算数科の学期 末テストの思考力・判 断力・表現力で70% 以上の児童の割合	70%	69%	98	B	72%	103	A
		学びの基礎・基本を 定着させる。	「ぐんぐんタイム」「ぐんぐん 教室」を充実し、AIドリルを活用 するなどして基礎的・基本 的な内容の定着を図る。	国語科・算数科の学期 末テストの知識・技能 で60点未満の児童の 割合	10% 未満	7%	142	A	6%	166	A
★ 豊 かな 心	感謝と貢献の心 をもち、協働して 取り組むことので きる心を育む。	礼節と規範意識を 醸成する。	1年間を通して「挨拶・右側 歩行」を徹底する取組を行 い、「安浦スタンダード」を徹 底させる。	学期末のアンケートで 肯定的に評価した児童 の割合	85%	97%	114	A	97%	114	A
		仲間や学校、地域 への感謝・貢献の 心を育てる。	縦割り班活動や学校行事・ 地域への取組など、「協働」 の心を育てる活動を推進す る。	学級や学校・地域の役 に立てたと言える児童 の割合	90%	98%	109	A	97%	108	A
★★ 防 災 教 育	「自分の命は自分 で守る」力を育成 するとともに、地 域の防災に貢献 する。 ②	「自分の命は自分で 守る」力を育成し、 保護者や地域の防 災意識を高める。	防災週間や防災参観日を設 け、防災教育(マイタイムライ ンの確認・見直し、学年に合 わせた取組)を各学級で行 う。また、各学級で行った防 災教育の実践を増やす。	「自分の住む地域に起 こりやすい災害につい て理解している児童の 割合」と「災害時に避難 する場所や避難の仕 方について理解してい る児童の割合の平均	90%	94%	104	A	93%	103	A

業務改善	業務改善を進め、 働き方改革を推 進する。	タブレットを効果的 に活用し児童と向き 合う時間を確保す る。	タブレット端末についての校 内研修を定期的に行い、タブ レットの効果的な活用を推進 し、毎日18時30分退校(水 曜日は18時)を徹底する。	時間外勤務が年間平 均45時間を超えない 教職員の割合	80%	82%	102	A	78%	97	B
------	-----------------------------	--	--	-----------------------------------	-----	-----	-----	---	-----	----	---

【k:評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60